



鳥羽市は「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」を目標としています。

とばし教育委員会 だより

2021.4.1 第21号



1人1台タブレットによる新たな学びが本格始動！

GIGAスクール構想による児童生徒1人1台タブレットが導入され、令和3年度からは、本格的にデジタル教科書等の電子教材を利用した通常授業における活用のほか、家庭学習や遠隔学習や交流学习など、様々な場面における活用が行われます。

育

持続可能な未来型の学校へ

鳥羽市教育長 小竹 篤



地域と共にある コミュニティ・スクール

1962年(S37年)に6,900人だった小中学生の児童生徒数は、2020年(R2年)には、1,100人ほどにまで減少しました。児童生徒だけでなく当然、PTA会員数も、学校の先生も減ってきます。学校をPTA、学校職員と教育委員会だけで運営していくには、大変厳しい状況です。

そこで、積極的に地域に開かれた学校、地域が運営していく学校というスタイルを小学校に導入します。それがコミュニティ・スクール(学校運営協議会)です。

運営協議会は、基本的には10名から15名ほどの地域の委員の方々に構成され、学校の運営について意見を言ったり、責任を担って頂いたりします。

令和元年度には菅島小学校がコミュニティ・スクールとなりましたが、令和3年度には、答志小学校、神島小中学校、弘道小学校、そして令和4年度には鳥羽小学校、加茂小学校、安楽島小学校が入り、鳥羽市内全ての小学校がコミュニティ・スクールとなる予定です。

GIGAスクールの推進

令和元年、文部科学省は、「一人1台パソコンの整備」(鳥羽市はiPadを導入)と「校内のwi-fi環境整備」をセットにした「GIGAスクール構想」を打ち出し、



鳥羽市においても令和2年度中に県内でも最速で環境整備を行いました。これによって、

- 授業方法が革命的に変わる
 - 遠隔授業で交流する
 - 臨時休校時も、自宅で健康観察や授業参加ができる
 - タブレットでドリル学習ができる
- など、大きな効果が期待できます。

英語教育を通じた コミュニケーション力の育成

グローバル化や国際的なイベント、インバウンドに対応できる人材の育成は、国際的な観光・文化都市をめざす鳥羽市にとって重要な課題です。



教育委員会では、独自の取り組みとして

- 幼稚園へのALT(英語助手)派遣
- 英検の公費受検
- イングリッシュデー(学校別に複数のALTを派遣して、児童が1日英語だけで過ごす)の実施
- 英語モデル校事業(学校の先生対象で、英語の授業実践研究をする)
- 外国人に対するガイドボランティアに参加できる環境づくり

などを行ってきました。子どもたちの英語学習への意欲や語学力も年々高まっています。これから数年で、全国でもトップレベルの英語教育を展開できるようになりたいと思います。

郷土学習と 海洋教育のカリキュラム化



鳥羽を愛してもらいたい、そして鳥羽で生活することに自信を持ってほしい。そんな思いから、平成30年度より小学校の郷土学習をカリキュラム化しました。

鳥羽市には、「海の博物館」、「ミキモト真珠島」、「鳥羽水族館」など、海にちなんだ施設があり、小浜町の「市水産研究所」の隣には「三重大学水産実験場」ができます。これらを更なるネットワークで繋ぎ、鳥羽独自の「海洋教育カリキュラム」を作成します。

鳥羽市の海洋教育のテーマは、「環境」と「産業」です。鳥羽の子どもたちが海とそれに繋がる環境を大切に、海から受ける恵みや生業に誇りを持ってようになってほしいという願いがそこにあります。



これらの取り組みについては、今後の広報とばで連載し、詳しく紹介させていただく予定です。

今年度の園児・児童・生徒数

令和3年度の園・学校数と園児・児童・生徒数(予定)は次のとおりです。
(幼稚園)1園、園児数29名 (小学校)7校、児童数660名 (中学校)5校、生徒数371名

生まれ変わる鳥羽の教



これからの「持続可能な未来型の学校」の在り方を求めて、「鳥羽市教育ビジョン」、「鳥羽市小中学校統合計画」、「鳥羽市子ども読書活動推進計画」の改定を行いました。

今後の人口減・少子高齢化社会の進行を見据え、「鳥羽市の地域社会の縮小にどう対応していくか」ということは避けて通れない課題です。

また、鳥羽市内の各地域は、それぞれの独特の歴史や文化、産業を有しており、その「後継や継承をどうしていくのか」ということも大きな課題です。

これらの計画は、この二つをどのように両立させていくのかという、鳥羽市教育の方向性と覚悟を示したものとなります。

新しい教育ビジョン

新しい教育ビジョンでは、教育目標を「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」としました。

人は、生まれながらにして、素晴らしい能力を持っています。そして、将来それぞれの道で花開かせる可能性を秘めています。その可能性を選択肢としてできる限り残していくことが、教育の重要な役割です。多様性を意識しつつ、自尊感情を育み、一人ひとりに寄り添った丁寧な教育を推進します。

そのために「しっかり学ぶ教育」と「鳥羽ならではの教育」の推進を図っていきます。

持続可能な学校統合計画

鳥羽市学校統合計画の内容は、要約すると

- ・「全ての小学校を地域が主体となって運営するコミュニティ・スクールとして存続させる」
 - ・「中学校は、適正規模・適正配置を目指す」
- ということになります。

平成27年に策定した旧統合計画では、「小学校が全校規模で20人以下、中学校で30人以下になったら、統合を検討する」ということになっていました。そのために、年度ごとで変わってしまう児童生徒数によって、統合計画が揺らぐという結果になっていました。

新しい計画によって、少なくとも今後10年間の鳥羽市における学校統廃合の考え方が持続されることとなります。

鳥羽セントラル中学校構想 ～中学校の統合計画～

中学校の適正規模・適正配置について、国の基準に照らし合わせると、鳥羽市には、中学校は1校でよいことになります。しかし、鳥羽市の特性である離島の地理的・気象的条件もありますので、神島中学校は当分の間、小中学校併設校として残し、答志中学校は地域の理解が得られた時に統合を行うとしています。

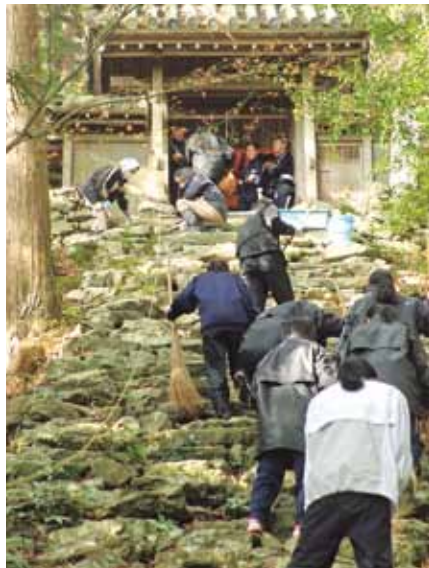
長岡中学校は令和4年、加茂中学校は令和6年に、鳥羽東中学校へ統合するという計画です。令和6年には、3校が1校に統合されることで、校名や校章、校歌も含めて新しい中学校に生まれ変わります。学校の規模が小さくなったから吸収合併をするのではなく、3つの中学校が対等な立場で、多様な学びや人との出会いをめざして生徒・保護者目線に立った新しい未来志向の新しい中学校をめざします。

丸山庫蔵寺の参道をボランティア清掃

加茂中学校

河内町の山中にある丸山庫蔵寺は、弘法大師ゆかりの寺として、多くの人々から厚い信仰を集め、本堂や鎮守堂は国の重要文化財にも指定されています。ふもとにある彦瀧大明神付近から続く参道は、近畿自然歩道にも指定される豊かな自然景観に恵まれ、地域の保存会を中心に清掃や管理が行われています。

加茂中学校では令和元年度より、部活動単位で参道のボランティア清掃を行っています。初年度は、野球部とソフトテニス部が参加し、令和2年度には、野球部、ソフトテニス部に加えて卓球部が参加し、合計23名程の生徒が部活動の時間帯を利用して参道の落ち葉や枝、岩や土砂の除去作業を行いました。2時間ほどの清掃作業でしたが、参加した生徒は、皆が意欲的に取り組み、丁寧に参道の清掃を行っています。



ありがとう、鏡浦小学校

鏡浦小学校が64年の歴史に幕

令和3年3月をもって鏡浦小学校が閉校し、安楽島小学校へ統合されました。

昭和32年9月に鏡浦地区にあった石鏡小学校、本浦小学校、浦小学校の3校が統合し、鏡浦小学校が設立され、これまで64年の長きにわたり、その歴史を刻んできました。

鏡浦小学校の閉校にあたり、地域では、PTAや学校が中心となり、「鏡浦小学校閉校実行委員会」が組織され、閉校記念誌や記念ボールペンが作成されました。

閉校記念誌では、鏡浦小学校沿革史や児童数の推移のほか、これまでの卒業写真や名簿、鳥羽一郎さんや山川豊さんなどの卒業生や勤務された教職員14名からのメッセージなどが掲載され、64年の歴史を十分に感じさせる約60ページに及ぶ仕上がりとなっています。この閉校記念誌や記念ボールペンは、鏡浦地区の各世帯へ配布されました。



令和3年3月25日には、鏡浦小学校において閉校記念式が開催されました。コロナ禍により多くの方の参加は叶いませんでしたが、出席した児童や保護者、関係者方が鏡浦小学校との別れを惜しまれました。

ご意見ご要望をお寄せ下さい